

～特定外来生物駆除のため～

つくし湖の水位を低下させ駆除を実施

令和元年9月中旬からつくし湖（南椎尾調整池）の水位を約2mほど低下させ、カワヒバリガイの駆除作業を行っています。

カワヒバリガイとは、環境省が指定する特定外来生物で中国南部や朝鮮半島原産の淡水付着性二枚貝です。殻長は成貝で30mm程度の小型の貝であり、日本における寿命は3年程度とされています。

カワヒバリガイは、足糸という繊維状物質を分泌して硬い基盤（岩、コンクリート、鉄等）に付着し、生活します。



カワヒバリガイ（成貝）

10 mm

霞ヶ浦用水施設においては、コンクリート壁面や除塵用スクリーンに付着し、通水障害を引き起こしたり、死貝がパイプに流れ込み、閉塞し、通水障害を引き起こしています。

霞ヶ浦用水管理所では、このような被害の発生を受け、農業環境変動研究センターや霞ヶ浦用水土地改良区などと連携した幼生数や付着個体数などのモニタリングを継続しており、その結果、特につくし湖における増殖が顕著であることから、つくし湖の水位を低下させ、カワヒバリガイの駆除を関係機関のご協力の下、行うこととしました。

低下させる期間は、9月中旬から11月末頃までを予定しており、駆除や調査によっては早まることもあります。

水位低下中は、いつもは水中にある地面が露出しますが、泥が溜まっていたり、柔らかな法面で崩れやすくなっていることがあることから、部外者のつくし湖内への立ち入りは禁止です。

【現在の状況】9月26日現在



つくし湖（南椎尾調整池）の水位低下の様子



コンクリート面に付着したカワヒバリガイの状況